

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和徳洲会病院新築工事	階数	地上7F地下1階
建設地	大和市中四丁目485-4~10,486-1~4,13	構造	SRC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	385 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年2月23日
敷地面積	6,402 m ²	作成者	(株)現代建築研究所
建築面積	3,790 m ²	確認日	2016年2月24日
延床面積	20,158 m ²	確認者	(株)現代建築研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	94%
③上記+②以外の	94%
④上記+	94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境	2.4
温熱環境	3.0
光・視環境	2.5
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	2.9
耐用性・信頼性	3.4
対応性・更新性	3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.3

生物環境	2.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	3.0

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	3.7
効率的運用	2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

水資源	3.4
非再生材の使用削減	3.1
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化への配慮	3.2
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
地域住民が利用できる公開空地(歩道状空地)を整備する計画とした。 空地には高木等による植栽を行い、周辺環境に配慮した。 また、高効率照明や節水型の水洗器具を採用し、省エネルギーで環境に配慮した病院計画とした。	0	
Q1 室内環境 厚木基地の騒音を防ぐため、防音対策として1階南面に2重サッシを採用した。また2重サッシを採用することで熱負荷対策にも寄与した。 仕上材にはシックハウス対策としてF☆☆☆☆建材を使用する計画とした。	Q2 サービス性能 外装仕上材には低汚染性、高耐久性に優れた「低汚染塗料」を採用し、メンテナンス性に配慮した計画とした。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー LED照明を積極的に採用する計画とした。	LR2 資源・マテリアル 節水型WC,節水型水洗機器を採用する計画とした。	LR3 敷地外環境 外壁色は「自治体の規則」に適合する色を採用した。また屋上機械の周囲には目隠しパネルを設置し、景観に配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される